日本の郷土芸能の為に

折口信夫

青空文庫

日本は、美しく清らかな郷土芸能の国である。これは事実であつて、誇張でも虚構でもない。其を相共目前に展観して、我々の民族性に対して、自ら信頼を持つやうにしたい。さう思つて我々は、戦争に先つ十数年の間、春毎秋毎の「郷土舞踊民謡の会」を催して来た。

口幅ひろく感じられるかも知れぬが、日本人らしい晴れやかな生活の実現が望ましかつたのである。その結果は単に予期にそふ成績をあげえたと言ふだけでなく、実は、期待しなかつた方面に、色々な発見があり、効果を自得したのであつた。

日本芸能の起原や、それぞれの芸としての価値、又は多様なる変化において、更め見直して驚く所が極めて多かつた。我々の相当に用意してかゝつた為事が、十分酬いられたことに、深く感謝を覚えた。

多くの芸能種目の中、殆芸能の出発点からあつた姿を残してゐるものを見ては、日本の芸の歴史の深さに驚く。中世近代の濃厚な宗教信仰を印象したものや、又それが、農・山・漁村の実生活に吸収せられて、それぞれ滋味を漂し或は日本独特の清潔な色気を含んで、我々の心をよくするものがある。又その村々における古風な労働や、饗宴の印象をとゞめてゐるものは、今日我々が見ても聞いても、祖先自らの身振り・声音（こわね）を目のあたりにするやうな気がする。更にもつと突つこんで芸能化したものに到つては、古代・中世・近代をこの国土に生きた人々の芸術的素質が、どうしてもそこまでつきつめずには居られなくなつて生れた、と言ふ類すら往々

ある。単なる郷土芸能の境涯を越えて、普遍な芸術の領域に入つたものと言はれる。われ〳〵は今一度、日本人が過去から現在に伝へ来た執拗なと言つてよい程激しく、鋭い芸術的感覚を、互に省みて、唯昔と今の我々を知るばかりでなく、其素質に沿うてどう進んで行つたらよいか、さう言ふ後来の反省を深める機会にもなれかしと思ふ。

しみ〳〵〳〵としたあなた方の心が、芸と民族との本然の関係を思つて下さる誘ひにもなれゝば、我々の期待は達せられるのである。

青空文庫情報

底本：「折口信夫全集　21」中央公論社
　　1996（平成8）年11月10日初版発行
初出：「文部省芸術祭第二回全国民俗芸能大会パンフレット」
　　1951（昭和26）年11月1日発行
※底本の題名の下に書かれている「昭和二十六年十一月「芸術祭第二回全国民俗芸能大会パンフレット」」はファイル末の「初出」欄に移しました。
入力：門田裕志
校正：フクポー
2018年1月27日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

日本の郷土芸能の為に

折口信夫

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/